

## 「時間ぎりぎり事故の元、余裕を持って安全運転 ヨシ！」 平成27年度最優秀交通安全標語

今月は発生件数の多い「追突事故」の原因と対策(Ⅱ)について紹介します。特に冬期は降雪や積雪などで追突事故やスリップ事故が多発するときです。雪の少ない地域でも予想外の大雪に見舞われることもあります。積雪路や凍結路を安全に走行するには、どのような運転をすればよいか考えてみました。

## Ⅰ. 追突事故の原因と対策

(1)[状況] 自動車Aは、黄色信号に従い減速・停止しようとしたところ、減速しなかった後続車Bに追突されてしまいました。

〔原因〕 黄色信号で通過をさせたBが「Aは交差点を通過するだろう」と勝手に思い込んだためです。

(2)[状況] 自動車Cは、右折車線に入ろうと、交差点の直前で無理な進路変更を始めました。後続車Dは慌ててブレーキを踏みますが、間に合いません。Eの自動車も、突然割り込んできたCの動きに対応できず、追突してしまいました。

〔原因〕 直接の原因は、交通ルールを無視したCの危険な行動です。しかし、DやEも万が一に備える心構えがあれば、回避できたかもしれません。

〔(1)と(2)の対策〕 交通ルールを守るのはもちろん、「～だろう・～するはず」といった思い込みはせず、常に周囲に気を配り、「～するかもしれない」という危険予測の心構えを持って運転しましょう。

図1-1



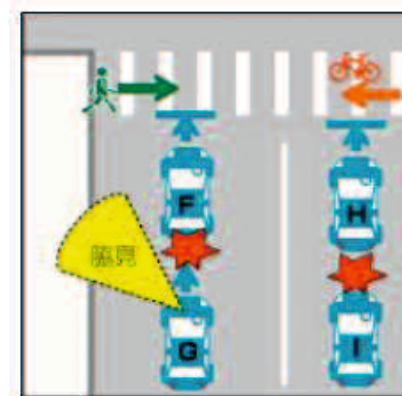
図1-2

(3)[状況] 信号のない横断歩道で、自動車Fの前に、左側から歩行者が飛び出してきました。Fは急ブレーキで対応しましたが、後続車Gは脇見運転をしていて気付くのが遅れ、追突してしまいました。

(4)[状況] 自動車Hの前にも、右側から自転車が猛スピードで飛び出してきました。Hも後続車Iも急ブレーキを踏みましたが、車間距離が充分でなかったため、追突事故になってしまいました。

〔原因〕 歩行者や自転車の無理な飛び出しが直接の原因ですが、Gの脇見運転やIの車間距離不足も、事故の要因といえます。

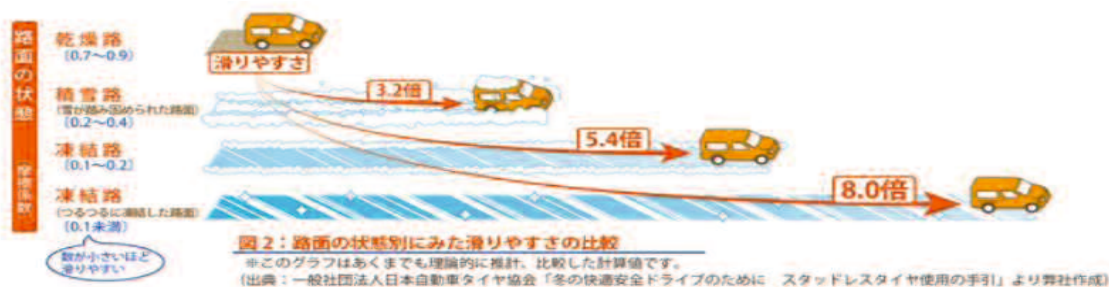
〔(3)と(4)の対策〕 交差点やその付近は、車だけでなく歩行者や自転車も多いものです。常に運転に集中し、脇見運転は絶対にしないこと、前車の急ブレーキにも対応できるよう充分に車間距離をとることを心がけましょう。



## Ⅱ. 雪道や凍結した道を安全に走行するために

## 1. 積雪路や凍結路はどれくらい滑りやすいのでしょうか？

路面の状態別に摩擦係数(摩擦力の大きさを差す指数で、数が小さいほど滑りやすいことを意味します)を比べ、積雪路や凍結路でタイヤがどれだけ滑りやすいのかを見てみましょう(図2)。乾燥路の摩擦係数は0.7～0.9になります。積雪路は乾燥路に比べ3.2倍滑りやすくなり、凍結路では5.4倍、さらにツルツルの凍結路だと8.0倍も滑りやすくなります。特に凍結路でスピードが出ていると、ハンドルを少し回すだけでタイヤが路面を滑り、停止しようとブレーキを踏んでもすぐに止まることができない状況に陥ることがわかります。



## 2. 積雪路や凍結路を安全に走行するためには

■積雪路や凍結路を安全に走行するためには、どのような運転をすればよいかを考えてみましょう。

### (1) いつもより早く出発しましょう。

スリップしやすい積雪路や凍結路の運転で、焦りは禁物です。時間と気持ちに余裕を持って運転するために、いつもより早く出発しましょう。

### (2) 車間距離をとり、ゆっくりとしたスピードで走行しましょう(図3)

積雪路や凍結路で走行する際は、スリップしたときのことを考えて、いつもより長い車間距離をとりましょう。ブレーキから足を離したときに車が動き始める「クリープ現象」を利用して静かに走り始め、ゆっくりとしたスピードで走行しましょう。停止するときはエンジンブレーキを利用して徐々に速度を落とし、急ブレーキを避けましょう。

### (3) ハンドルをしっかりと握り、車輪をわだちに沿わせて走行しましょう

わだち(車が通ったあとに残る車輪の跡)がある道路では、タイヤがわだちの側面に当たりハンドルをとられる場合があります。ハンドルをしっかりと握り、車輪をわだちに沿わせてスピードを落として走行しましょう。

### (4) カーブの手前では、十分にスピードを落としましょう

積雪路や凍結路のカーブでは急ブレーキを避け、カーブ手前では普段より遅く感じるくらい十分にスピードを落としましょう。曲がるときは、ハンドルをゆっくりと操作しましょう。カーブから出るときは急加速を避け、アクセルを踏み込まずゆっくりと加速させましょう。

### (5) 下り坂では、エンジンブレーキを使いましょう

積雪路や凍結路の下り坂では、スピードが出やすく、不用意にブレーキを使うとスリップします。坂の手前では十分にスピードを落とし、エンジンブレーキを使って、急ブレーキを避けましょう。

図3



### (6) 橋の上やトンネルの出入り口付近は、特に注意して走行しましょう(図4)

橋の上やトンネルの出入り口付近は風通しがよく、凍結しやすくなります。乾燥した路面からそのままのスピードで橋に入ったり、トンネルから出たりすると、スリップする危険性があります。橋の上やトンネルの出口では、凍結しているかもしれないと意識しながら、十分注意して走行しましょう。

図4



積雪路や凍結路を運転する際は、いつもより早く出発し、長い車間距離をとり、ゆっくりとしたスピードで走行しましょう。

## Ⅲ. 今月のスローガン

前後の車を確認し

追突しない・されない運転を